

# クローバー通信

## 「女性医師へのメッセージ」 獨協医科大学 皮膚科学 教授 簀持 淳

女性医師の多い科といえば「皮膚科」と皆さんは思いでしょうか。医師国家試験の合格者に占める女性医師の割合は最近では約 3 分の1であり、当教室でも多くの女性医師に頑張って頂いております。現在の日本皮膚科学会の会員の女性の占める割合は約 4 割で、現在の皮膚科専門医における女性の占める割合も約 4 割とのことですが、これを年齢別に数値化して 20 代から 40 代などとするれば、もっと高い値になると考えられます。実際に私たちの教室を見ますと現在医局員は 23 名で男性 12 名 (52%)、女性 11 名 (43%) です。しかし入局者のあった最近の 5 年間は入局者総数は 11 名で、そのうち女性医師の入局は 7 名 (64%) で、やはり多くの女性医師に支えられていると言えます。

女性医師の場合、それぞれの人生の時期によって勤務内容も変化していきますが、私は多くの女性医師が皮膚科医として地域医療に貢献している事実を頼もしく思っています。そしてこれから私は医局や仕事の環境が女性医師にとって働きやすい職場環境となるよう、できる限り支援していけたらと考えております。これまで私たちの皮膚科でのことを話してまいりましたが、これをご覧になる皮膚科以外の女性医師の先生方がそれぞれの分野で力強く活躍されることをお祈りいたします。

## 男性医師をロールモデルとした、第6回交流会を開催しました。

第2外科の磯先生、呼吸器・アレルギー内科の大和田先生、ありがとうございました。磯先生の登壇にあたり、なんと！第2外科の窪田教授がクローバー交流会に参加してくださいました。磯先生は外科医の激務と子育てのやりくりについて楽しくお話されました。しっかりパパをやりながら、業績の多さに磯先生のバイタリティーを感じました。

大和田先生には男性医師と子育ての環境についてお話いただきました。第一子が生まれたころはまだ、周囲の子育てに対する理解が乏しかったそうで、ここ10年での日本の育児環境の変化を感じました。現在単身赴任中で、土日は奥様の慰労と育児参加のため家に帰り、一日中家事をするなど、まさしく男女共参画を地で行く具体的な話をいただきました。



この交流会の様子は栃木県女性医師支援センターのニュースレターにも掲載される予定です。とてもたくさんの方に来ていただき、立ち見が出るほど盛況でした。皆様ありがとうございました。今回来られなかった方々も次回は是非ご参加ください。

(女性医師支援センター 前澤 玲華)

